

第 67 回 日本酪農研究会 開催のご報告

平成 27 年 11 月に福岡にて開催された「第 67 回日本酪農研究会」には、全国から 320 余名の参加者が集まり盛大に開催されました。研究会では、全国から選抜された酪農家 6 名による酪農経営発表と 5 名の意見・事例発表が行われました。

今回の経営発表では、いずれの事例も経営を継承する中で経営困難に直面したことが共通しており、経営困難への対応策とその結果作り上げられた経営はそれぞれ異なることが特徴的でした。具体的な対応策として、耕畜連携の取り組み、TMR センターやコントラクターの設立、高泌乳から放牧への大転換、ICT 利用や PDCA サイクルによる経営管理の強化の取り組みが披露され、それぞれの経営課題や地域条件に合わせた酪農経営のあり方を学ぶとともに、酪農経営の多様さと可能性が感じられました。

また、意見・事例発表では、外から酪農の世界に入り、そのやりがいや魅力を語っていただいた方、父や祖父が支えてきた酪農を自分が新たな感覚で切り拓いていく決意を語っていただいた方がおり、どちらも、酪農の基本は「家族」であり「地域である」と再認識できた発表でした。

発表会後に行われた講演会では、「挑戦 ～今、私にできること～」と題して車いすアスリートの副島正純氏より、23 歳のときに骨髄を損傷して車いす生活になり、絶望のどん底から車いすマラソンに出会い、現在はリオのパラリンピック出場を目指し活動が続けられていること、「自分の人生をどこまで楽しめるのか、それに挑戦したい」とのお話を頂き、会場全体が感動に包まれ、副島氏から勇気をいただきました。

続いて、「口蹄疫を経験して・・・今、教育の現場から」と題し、宮崎県立高鍋高等学校の明永弘道先生・福留賢次先生より、平成 22 年 3 月に宮崎県で発生した口蹄疫の体験をお話頂きました。当時、経験した乳牛 32 頭、肉牛 22 頭、豚 281 頭の殺処分、いつ終息するか分からない口蹄疫の恐ろしさ、命の大切さを改めて実感しました。

以 上